

様式第2号（第5条関係）

平成30年4月10日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

土井道子



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成30年1月29日 ～ 平成30年1月31日まで
- 2 旅 行 先 東京都千代田区 衆議院会館、佐賀県伊万里市 市民図書館
- 3 目 的 新経済政策パッケージ研修、佐賀県伊万里市市民図書館視察
- 4 関係書類 別紙のとおり



研修名	新しい経済政策パッケージ
日 時	平成 30 年 1 月 29 日（月） 11 時
会 場	東京都千代田区 衆議院会館
講 師	衆議院議員 渡辺孝一氏
内 容	はじめに アベノミクス「改革の矢」を放ち続けたことで、経済の停滞を打破することができた。この経済成長を確たる基とするのは、持続していくのは、少子高齢化への対応である。その最大の壁に立ち向かうため 生産性革命と人づくり革命を両輪に掲げ、2020 年に向けて取り組んでいく。 人づくり革命 ・ 幼児教育の無償化 ・ 待機児童の解消 ・ 高等教育の無償化 ・ 私立高等学校の授業料の実質無料化 ・ 介護人材の処遇改善 ・ 施策を実現するための安定財源 ・ 介護分野における外国人人材 など 生産性革命 ・ IoT、ビッグデータ、ロボット、人工知能など新しいイノベーションを活用して革命的に生産性を押し上げていく ・ 中小企業・小規模事業者向け ・ 事業継承の中小支援 ・ 中小企業等を支援する機関の機能強化 ・ 下請け取引適正化に向けた取り組み拡大 ・ 地域中核企業等による地域経済の活性化 ・ 地方創生の推進 ・ 中小企業向けの特許料金の一律半 ・ 多様なワークスタイルの促進 ・ ベンチャー支援強化 ・ 解雇無効時の金銭救済制 など 以上の各施策について、必要な予算・税制上の措置、制度改正を行い、実施状況を検証しつつ、必要な事項について来年夏をめどに具体化を図る。
感 想	この経済政策パッケージと、最近の新聞報道を絡み合わせてみると、栗山町における産業の振興、企業の発展及び子育て世代への支援、人材育成などが大いに期待できるのではと希望を感じた。 今後の予算に国や道からの交付金がどのように反映されるか、また栗山町の施策について、きちんと注視していきたいと思っている。

研修名	佐賀県 伊万里市民図書館 視察
日 時	2018（平成 30）年 1 月 30 日（火） 13:00
会 場	佐賀県伊万里市民図書館
対応者	伊万里市議会 議員 ・ 図書館フレンズいまり 役員 盛 康子 氏
内 容	伊万里市民図書館の概要 建設時の目標 「伊万里をつくり市民とともにそだつ 市民の図書館」 開館は平成 7 年 7 月 7 日 施設 敷地面積 7692 m² 延床面積 4,374 m² 構造 鉄筋コンクリート 一部 3 階建て 職員 18 名（内司書 11 名） 嘱託館長 1 名 開館 火～日 10 時～18 時（金曜は夜 10 時まで） 目標 ・ 自由で公平な情報を提供し、市民の知的自由をまもる図書館 ・ 将来の伊万里をつくる子どもたちに夢をそだてていく図書館 ・ 本のある出会いの広場、文化を育むオアシスとしての図書館 ・ 全ての市民に開かれた市民のライフスタイルを高める図書館 収容 最大 48 万冊 予算 平成 29 年度 1 億 6 千 8 百万円 内資料費 1 千 8 百万 実績 貸出数 468,150 点 レファレンス 1,111 件 リクエスト 10,514 件 支援団体 図書館フレンズいまり（会員数 392 名 会費年 1,000 円） 図書館の活動に協力し、提言することにより市民のための 図書館であり続けるよう守り育てることを目的とする 合言葉は 「協力と提言」 視察の状況 伊万里市民図書館は、「市民参加の図書館づくり」として活動している、現在日本で最も注目されている公共図書館のひとつである。 北海道の雪深い栗山町と比べて、冷たい木枯らしが吹く伊万里市は、歴史の重さを感じ取れる街並みで、中心部に構える図書館は、モスグリーンの壁が目溶け込む 4 千平方メートルの広大な建造物であった。 図書館は、個々人が生涯にわたって利用される公共施設であるが、そのポリシーが設備や書架に極め細かく反映され、設計者の綿密さ斬新さが見事に調和している。ドライブスルーのブックポスト、木製ならではの書架の高さ、書架の間に配置された居座りのよい椅子など、やすらぎを感じ取れる空間が随所にあった。

感 想	乳幼児から高齢者まで、多様な年代層の暮らしや学習情報の知識、やすらぎを必要とする空間や情報が無料で手に入る施設は、図書館を置いてほかにないと思う。 施設を運営するのは職員であるがそれを支えるのは、住民の声であり力である。栗山町図書館はコンパクトな施設であるが、その機能を最大限に活用した図書館経営が推進されるよう、もっと利用者たちと協力していけたらという希望が芽生えた視察になった。 地域住民や自治体関係者とのコミュニケーションを取り合い、また人生 100 年時代を生き抜こうとするシニアのためにも図書館活動が媒体になればと強く感じた。
-----	---